

北方領土問題とは

第2次世界大戦直後、ソ連軍によって不法占拠され、現在もロシアの不法占拠下にある北方四島（択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島）の早期返還を求めています。

忘れていませんか？

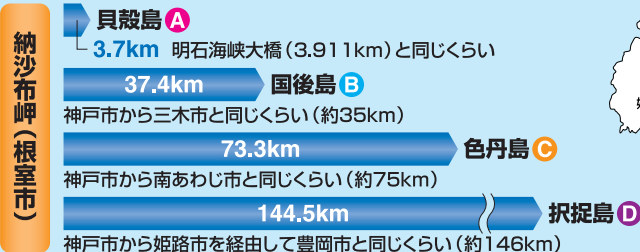
北海道の先に「日本」があることを！！



兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

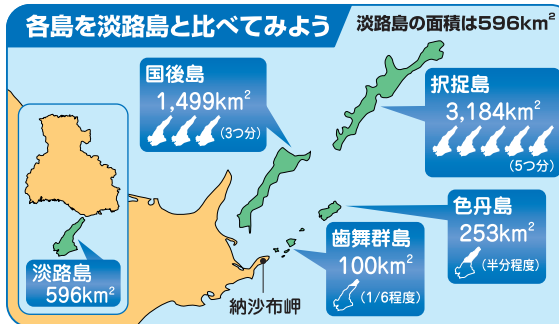
こんなに近い北方領土

北海道の納沙布岬から北方領土までの距離



北方領土の面積

北方領土の面積は5,036km²
※兵庫県の面積(8,394km²)の約2/3(60%程度)



北方領土の自然

北方領土の風土気候は、北海道の根室や釧路の海岸地方とほぼ同じです。歯舞群島と色丹島は、もともと根室半島と陸つぎだったとされ、地質的にも根室半島とほぼ同じで、ゆるやかな丘陵地になっています。国後島と択捉島は千島火山帯が走っているため、山が多く、多くの湖沼が散在しているのが特徴です。

北方領土の周辺の海は暖流(日本海流)と寒流(千島海流)が交わっていることから世界三大漁場の一つに数えられています。さけ、ます、にしん、たら、毛ガニ、タラバガニ、花咲ガニ、ホタテ貝、ホッキ貝、コンブなど大変多くの種類の水産物がとれ、漁業が産業の中心です。



材木岩(国後島)



散布山(択捉島)

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

北方領土の歴史

日本が北方の島々を知ったのは、今からおよそ390年以上も昔のことといわれています。これは、松前藩の「新羅(しんら)の記録」によって明らかです。

1644年(正保元年)江戸幕府は、「正保御国絵図」を編さんするため、諸国に国絵図の提出を命じました。このとき松前藩が提出した国絵図に「くなしり」「えとろふ」など39の島々が書かれています。

ロシア人が初めて千島を探検したのが1711年(正徳元年)のことですので、その約100年前から日本は北方の島々と関わりをもっていたのです。

また、ロシアの探検隊が作成した地図には、北方の島々は「オストロフ・アボンスキヤ(日本の島々)」と明記されています。

1700年代になると、幕府は自ら北方の島々の経営に取り組むようになり、国後島、択捉島を中心に最上徳内、工楽松右衛門、高田屋嘉兵衛等のような勇敢な日本人が活躍しました。

このような歴史的事実と当時の実情を踏まえて、1855年に平和的な話し合いの結果、日口間に初めて国境が決められたのです。



徳川幕府撰正保御国絵図(1644年)



最上徳内

近藤重蔵

クローズアップ!!

～北方領土にゆかりのある兵庫県の偉人～

くらく まつえもん
工楽松右衛門(1743年(寛保3年)、高砂市生まれ)

幼少の頃から改良や発明が好きだった松右衛門は、それまでの脆弱な帆布に改良を加え、本綿を使った厚地大幅物の帆布の織り上げに成功、「松右衛門帆」と呼ばれて全国の帆船に用いられるようになりました。

また、松右衛門は幕府の命を受けて千島のエトロフ島に埠頭を築き、函館にドックもつくりました。これらの功により「工夫を楽しむ」という意味の工楽の姓を与えられ、その後も優れた築港技術者として活躍しました。

たかたや かへえ
高田屋嘉兵衛(1769年(明和6年)、淡路島五色町生まれ)

貧しい農家の長男として生まれ、幼い頃から海に親しみ船を愛した嘉兵衛は、やがて優秀な船乗りとなり、大坂(大阪)から蝦夷地(北海道)へ至る西廻り(日本海)航路で交易する廻船問屋として活躍を始めます。28歳で1500石積の大船辰悦丸(しんえつまる)を建造して独立。当時はまだ寒村に過ぎなかった箱館(函館)を拠点として、単なる商人としてだけでなく、幕府の要請を受けてエトロフ島とクナシリ島間の航路を拓くなど、北方の開拓者としても優れた功績を残しました。

※その生涯の絶頂期に不運にも巻き込まれた「ゴローニン事件」では、自らが囚われの身となりながら、その英知と勇氣と人間愛に貫かれた「高田屋外交」で、日露両国の和解を成し遂げました。

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

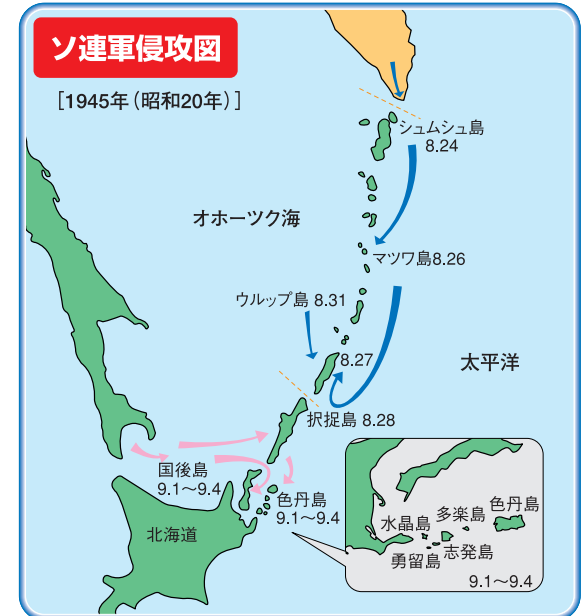
占拠のいきさつ

第二次世界大戦末期の1945年(昭和20年)8月9日に、ソ連はそれまで有効だった「日ソ中立条約」(1941年締結)を一方的に破棄して、対日参戦しました。

ソ連軍は終戦後の8月18日から千島列島の攻撃を開始し、ウルップ島まで侵攻しましたが、そこから北に引き返しました。しかし、択捉島以南にアメリカ軍が進駐していないことを知り、別の部隊が同28日に択捉島、9月1日～4日の間に国後島、色丹島、歯舞群島をそれぞれ武装解除し、遅くとも9月5日までに千島列島のみならず北方領土も占領したとされています。

ソ連軍侵攻図

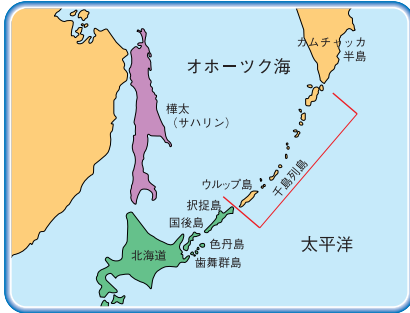
[1945年(昭和20年)]



兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

国際法から見た北方領土

1855年 日魯通好条約



現在の静岡県下田市において締結され、下田条約とも呼ばれています。この条約で両国の国境は、択捉島とウルップ島の間と決められ、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島が日本の領土として、ウルップ島から北の千島列島がロシア領として確定されました。また、樺太は両国民の混在地と決められました。

1875年 樺太千島交換条約



日本は、千島列島をロシアから譲り受けるかわりに、樺太全島を放棄しました。この条約では、日本に譲渡される千島列島の島名を一つ一つあげていますが、列挙されている島は、ウルップ島より北の18の島で択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は入っていませんでした。

1951年 サンフランシスコ平和条約



日本は、千島列島と南樺太の権利、権限及び請求権を放棄しました。しかし、放棄した千島列島には択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は含まれていません。なお、この条約では放棄した地域が最終的にどこに帰属するかについては、何も決められていません。

1905年 ポーツマス条約



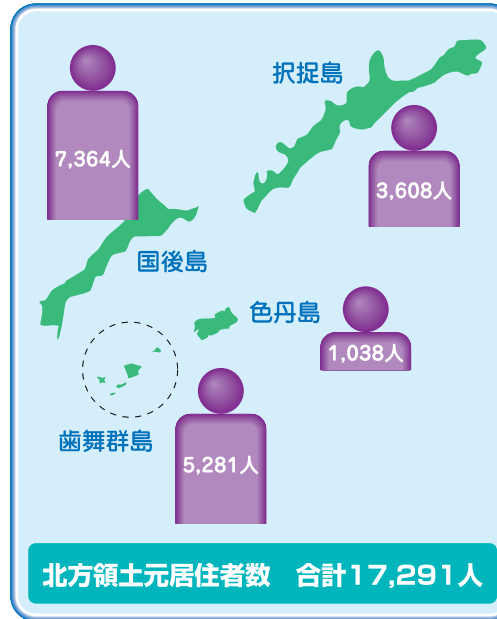
日露戦争の結果、北緯50度以南の南樺太が日本の領土になりました。

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

元島民の様子と現在の北方領土

北方領土には、終戦時、3,124世帯、17,291人の日本人が住んでいました。(H19.3千島歯舞諸島移住者連盟調べ) 島民の約半数は、ソ連軍の厳しい監視の目をくぐってふるさとの島々を脱出しましたが、それ以外の島民はそのまま抑留され、樺太などで非常に苦しい生活を送り、昭和22年から24年にかけて引き揚げられました。現在は、日本の領土でありながら日本人は一人も住んでいませんが、当時日本人が建てた電柱や郵便局、お墓などが残っています。

現在、北方四島はロシアの不法占拠の下にあります。ロシアの行政区分上サハリン州に属しています。択捉島、国後島、色丹島には約16,800人のロシア人が住んでおり、歯舞群島には国境警備隊しか住んでいません。道路などのインフラ整備が遅れていますが、ロシア政府は「2007～2015年クリル諸島社会経済発展連邦プログラム」を閣議で承認し、社会基盤整備をする計画があるといわれています。



北方領土で先祖の墓参をする元居住者



現在の国後島の港

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

平和条約締結に向けての取り組み

1993年10月に、日ロ両首脳によって合意された「東京宣言」では、北方領土の問題を歴史的、法的事実に立脚し、両国の間で合意のうえで作成された諸文書及び法と正義の原則を基礎として解決し、平和条約を早期に締結するとの明確な交渉基礎が確立されました。

「わが国固有の領土である北方領土の帰属の問題を解決して平和条約を締結することにより、ロシアとの間に真の相互理解に基づく安定的な関係を確立する」との基本方針を一貫して堅持し、ロシアに対して粘り強く外交交渉が続けられています。

東京宣言

(北方領土問題関係抜粋)

日本国総理大臣及びロシア連邦大統領は、両国関係における困難な過去の遺産は克服されなければならないとの認識を共有し、択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島の帰属に関する問題について真剣な交渉を行った。双方は、この問題を歴史的、法的事実に立脚、両国の間で合意の上作成された諸文書及び法と正義の原則を基礎として解決することにより、平和条約を早期に締結するよう交渉を継続し、もって両国間の関係を完全に正常化すべきことに合意する。(1993年10月)



東京宣言に署名する細川総理とエリツィン大統領(93.10東京)



メドヴェージェフ大統領と握手する野田総理(11.11ホノルル)

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

北方領土返還要求運動

終戦間もない1945年12月、当時の安藤石輔(あんどういしすけ)根室市長が連合軍最高司令官マッカーサー元帥に対して、北方領土問題の解決を訴える陳情書を提出したのが返還運動の始まりです。今では全国に都道府県民会議が結成され、2月と8月を「北方領土返還運動全国強調月間」と定め、大会やパネル展、街頭啓発など活発な運動が行われています。



北方領土返還要求全国大会(東京)



フォーラム フォーラブ北方四島(神戸市)



北方領土歴史サミット(洲本市)



「北方領土の日」記念県民大会(神戸市)

クローズアップ!!

～北方領土の日～

北方領土の返還を求める多くの人たちから返還運動を盛り上げるため「北方領土の日」を設けるべきという強い要望を受けて、1981年(昭和56年)に政府は、2月7日を「北方領土の日」とすることを閣議で了解しました。この2月7日は、1855年(安政元年)日ロ両国の国境を定めた「日魯通好条約」が伊豆の下田で署名された日です。

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

北方四島交流事業(訪問・受入)

1991年(平成3年)、ソ連側から日本国民と四島住民との交流を行うことが提案され、1992年(平成4年)から旅券(パスポート)・査証(ビザ)なしでの北方四島交流事業が始まりました。これまでに相互プログラムを通じて、わが国の北方領土問題に対する主張を伝えるとともに、四島住民が日本の実情や日本人の考え方を理解するための機会を提供しています。



一般訪問(択捉島/相撲)



専門家訪問(色丹島/日本語会話教室)



青少年の受入(京都/意見交換会)



北方領土セミナー(根室/説明に聞き入る大学生)



長期訪問(国後島/茶道)



青少年現地研修会(根室/実践授業)

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議

ま と め

1945年にソ連が北方四島を不法占拠して以来、日ソ共同宣言に基づき、日ソ間に外交関係が回復された後も、長い間ソ連は領土問題の存在すら認めなかった時期もありました。しかし、ソ連崩壊後、新生ロシアは領土問題を「法と正義」に基づいて解決するという立場を示すようになりました。東京宣言は平和条約締結のための交渉に関する明確な指針を示しており、今後の交渉も東京宣言に基づいて行われていくことが必要です。政府が、ロシアとの交渉を強力に推進するためには、国民のひとり一人の理解と協力が不可欠です。そのためにも北方領土返還に対する国民の総意をますます強固なものとして、これを明確に表明し続けなければならないと考えています。



北方領土返還祈念シンボル「四島のかけ橋」

兵庫県北方領土教育者会議
北方領土返還運動兵庫県推進会議